

国

語

注意

1. 問題は全部で16ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. **HB**の黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

多くの人は、蕪村について真の研究を忘れている。人々の蕪村について、批判し定評するところのものは、かつて子規一派の俳人らが、その独自の文学観から鑑賞批判したところを、無批判に伝授している以外、さらに一步も出ていないのである。そしてこれが、今日蕪村について言われる一般の「定評」¹なのである。試みにその「定評」の内容をあげて見よう。蕪村の俳句の特色として、人々の一様に言うところは、およそ次のような条々²である。

- 一、写生主義的、印象主義的であること。
- 一、芭蕉のホ^aンゼンのな^aのに対し、技巧主義的であること。
- 一、芭蕉は人生派の詩人であり、蕪村は叙景派の詩人である。
- 一、芭蕉は主観的の俳人であり、蕪村は客観的、主知的の俳人である。

「印象的」「技巧的」「絵画的」「主知的」ということは、すべて客観主義的芸術の特色である。それゆえに以上の定評を概括すれば、要するに蕪村の特色は「客観的」だということになる。そしてこれが、芭蕉の「主観的」に對比して考えられているのである。ところで芸術における「主観的」「客観的」もしくは「主情主義的」「主知主義的」ということは、本来何を意味するものだろうか。約言すれば、すべての客観主義的芸術とは、智慧を止揚^{しやう}したところの主観表現に外ならない。およそいかなる世界においても、主観のない芸術というものは存在しない。ただロマンチズムとリアリズムとは、主観の発想に関するところの、表現の様式がちがうのである。それゆえに本来言えば、単なる「叙景詩」とか「叙景派の詩」などというものは実在しない。もしあるとすればナ²ンセンスであり、似²而非²の駄文学にすぎないのだ。いわんや俳句のような抒情詩——俳句は抒情詩の一種であり、しかもその純粹の形式である。——において、主観は常にポエジイの本質となっているのである。俳句のような文学において、主観が稀薄で

あるとすれば、そのポエジイは無価値であり、その作家は「精神に詩を持たない」似而非詩人である。

ところで一般に言われるごとく、蕪村が芭蕉に比して客観的の詩人であり、客観主義的態度の作家であることは疑いない。したがってまた「印象的」「技巧的」「絵画的」「主知的」等、すべて彼の特色について指摘されているところも、定評として正しく、決して誤っていないのである。しかしながら多くの人は、これらの客観的特色の背後における、詩人その人の主観を見ていないのである。そしてこの「主観」こそ、まさしく蕪村のポエジイであり、詩人が訴えようとするところの、唯一の抒情詩の本体なのだ。人々は芭蕉について、一茶について、こうした抒情詩の本体を知り、その叙景的な俳句を通して、芭蕉や一茶の悩みを感じ、彼らの訴えようとしている人生から、主観の意志する「詩」をつかんでいる。しかも何と不思議なことに、人々はなお蕪村について無智であり、単に客観的の詩人と評する以外、少しも蕪村その人の「詩」を知らないのである。そしてしかも、蕪村を讃して芭蕉と比肩し、無批判に俳聖と称している。「詩」をその本質に持たない俳聖。そして単に、技巧や修辭に巧みであり、絵画的の描写を能事⁴としてゐる俳聖。そんな似而非詩人の俳聖がどこにゐるか。

こうした見地から立言すれば、蕪村の世俗に誤⁵られていること、今日のごとく甚だしきはないと言える。かつて芥川龍之介君と俳句を論じた時、芥川君は芭蕉をあげて蕪村をけなした。その蕪村を好まぬ理由は、蕪村が技巧的の作家であり、単なる印象派の作家であつて、芭蕉に見るような人生観や、Aの強いポエジイがないからだと言ふことだつた。友人室生犀星君も、かつて同じような意味のことを、蕪村に関して僕に語つた。そして今日俳壇に住む多くの人は、好悪の意味を別に、等しく皆同様の観察をし、上述の「定評」以外に、蕪村を理解していないのである。

蕪村を誤つた罪は、思うに彼の最初の発見者である子規、及びその門下生なる根岸派一派の俳人にある。子規一派の俳人たちは、詩からすべての A とヴィジョンを排斥し、自然をその「あるがままの印象」で、単に平面的にスケッチすることを能事とする、いわゆる「写生主義」を唱えたのである（この写生主義が、後年日本特殊の自然主義文学の先驅をした。今日でもなお、アララギ派の歌人がこの美学を伝承しているのは、人の知る通りである）。こうした文学論がいかに浅薄皮相⁶であり、特に詩に関して邪説であるかは、ここで論ずべき限りでないが、とにかくにも子規一派は、この文学的イデオロギーによつて蕪村を

批判し、かつそれによつて鑑賞したため、自然蕪村の本質が、彼らのいわゆる写生主義の規範的俳人と目されたのである。

今や蕪村の俳句は、改めてまた鑑賞され、新しくまた再批判されねばならない。僕の断じて立言し得ることは、蕪村が単なる写生主義者や、単なる技巧的スケッチ画家でないということである。反対に蕪村こそは、一つの強い主観を有し、^{*}アイデアの痛切な思慕を歌つたところの、真の抒情詩の抒情詩人、真の俳句の俳人であつたのである。ではそもそも、蕪村におけるこの「主観」の実体は何だろうか。換言すれば、詩人蕪村の魂が詠嘆し、憧憬し、永久に思慕したアイデアの内容、即ち彼のポエジイの実体は何だろうか。一言にして言えば、それは時間の遠い彼岸に実在している、彼の魂の故郷に対する「郷愁」であり、昔々しきりに思う、子守唄の哀切な思慕であつた。実にこの一つのポエジイこそ、彼の俳句のあらゆる表現を一貫して、読者の心に響いて来る音楽であり、詩的情感の本質を成す実体なのだ。

(萩原朔太郎『郷愁の詩人 与謝蕪村』による)

(注)

*アイデア：プラトン哲学の概念で「ものごとの真の姿、永遠不変の価値」を意味する。

問一 傍線部1「定評」を作り上げたのは「子規一派」であると筆者は述べている。そしてこの一派について、彼らが刊行した雑誌の誌名にちなむ呼び名をあげている。その呼び名として最適なもの^①～^⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① 根岸派 ② 叙景派 ③ 写生派 ④ アララギ派 ⑤ 人生派

問二 二重傍線部a「ホンゼンの」カタカナの部分^aを漢字で記せ。解答用紙(その2)を使用。

問三 傍線部2「似而非」は「似て非なるもの」という意味の当て字であるが、ここでは何と読むべきか。読みとして最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **2**。

- ① くわせ ② えせ ③ ねつぞう ④ やぶ ⑤ まゆつば

問四 傍線部3「こうした抒情詩の本体」は、後の部分で言い換えられている。最も確に言い換えられている部分を抜き出すとき、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **3**。

- ① 主観のない芸術
② 時間の遠い彼岸
③ 子守唄の哀切な思慕
④ 真の抒情詩の抒情詩人
⑤ ポエジイの実体

問五 傍線部4「能事」という言葉は、「能事足れり」という表現で用いることがある。この表現の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **4**。

- ① 自分のお能の稽古が充分にできている
② 自分のなすべきことは全てなし終えた
③ 自分の能力に見合う仕事がたくさんある
④ 自分の知能と仕事は均衡がとれている
⑤ 自分の能力が終わるとき義務も終わる

問六 傍線部5「世俗に誤られている」をわかりやすく言い換えるとき、最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。

解答欄番号は5。

- ① 世間で騒がれている
- ② 世間で過分に評価されている
- ③ 世間に誤ってまぎれ込んでいる
- ④ 世間で誤解されている
- ⑤ 世間にごまかされている

問七 文中二箇所の空欄

A

には同じ言葉が入るが、その言葉として最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。

解答欄番号は6。

- ① スケッチ
- ② 主観
- ③ 客観
- ④ 絵画性
- ⑤ リアリズム

問八 二重傍線部b「浅薄皮相」における「浅薄」の読みとして最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号

は7。

- ① せんぱく
- ② さんぱく
- ③ ざんぱく
- ④ あさはか
- ⑤ さんぱく

問九 傍線部6「この文学的イデオロギー」を別の言葉に置き換えるとき、最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。

解答欄番号は8。

- ① 技巧主義
- ② 主情主義
- ③ 主知主義
- ④ 印象主義
- ⑤ 写生主義

問十 傍線部7「蕪村におけるこの「主観」の実体」を筆者は要約して何だといっているか。最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。

解答欄番号は9。

- ① 抒情
- ② 印象
- ③ 郷愁
- ④ 情感
- ⑤ 音楽

二 光源氏との間に姫君をもうけた明石の君は、三歳になる姫君とともに、明石から、都の西、大堰おおいの山荘に移り住んだ。源氏が、自邸の二条院近くの東院に入るよう要請していたからである。明石の君は、月に二度ほど仏事にかこつけた源氏の訪問を受けているが、源氏は、自分と妻である紫の上のもとに姫君を引き取ることを考えていた。次の文章は、そのような源氏を明石の君が迎えたある日の場面である。よく読んで、後の問に答えよ。

冬になりゆくまに、川づらの住まひいとど心細さまさりて、上の空なる心地のみしつ明かし暮らすを、君も、「なほかくてはえ過ぐさじ。^{*}かの近き所に思ひ立ちね」とすすめたまへど、¹つらきところ多く試みはてむも残りなき心地すべきを、いかに言ひてかなどいふやうに思ひ乱れたり。「さらばこの若君を。かくてのみは便なきことなり。思ふ心あればかたじけなし。^{*}対に聞きおきて常にゆかしがるを、しばし見ならはさせて、袴着かばきのことなども、人知れぬさまならずしなむとなむ思ふ」と、まめやかに語りひたまふ。さ思すらむ、と思ひわたることなれば、いとど胸つぶれぬ。

「あらためてやんごとなき方にもてなされたまふとも、²人の漏り聞かむことは、なかなかやつくろひがたく思されむ」とて放ちがたく思ひたる、³ことわりにはあれど、「うしろやすからぬ方にやなどはな疑ひたまひそ。かしこには年経ぬれどかかる人もなきが、さうさうしくおぼゆるまに、^{*}前齋宮のおとなびものしたまふをだにこそあながちに扱ひきこゆめれば、ましてかく憎みがたげなめるほどを、おろかには見放つまじき心ばへに」など、女君の御ありさまの思ふやうなることも語りたまふ。

げに、いにしへは、いかばかりのことに定まりたまふべきにかと、²伝にもほの聞こえし御心のなごりなく静まりたまへるは、おぼろけの御宿世にもあらず、⁵人の御ありさまもここの御中にすぐれたまへるにこそは、と思ひやられて、⁶数ならぬ人の並びきこゆべきおぼえにもあらぬを、さすがに、立ち出でて、⁷人もめざましと思すことやあらむ、わが身はとてもかくても同じこと、生ひ先遠き人の御上もつひにはかの御心にかかるべきにこそあめれ、さりとならば、げにかう何心なきほどにや譲りまし、と思ふ、また、手を放ちてうしろめたからむこと、つれづれも慰む方なくては、いかかは明かし暮らすべから

む、何につけてかたまさかの御立ち寄りもあらむ、などさまさまに思ひ乱るるに、身のうきこと限りなし。

〔源氏物語〕薄雲卷

(注)

*君：光源氏。

*かの近き所：東院。

*思ふ心：姫君を将来后にしたいという考え。

*対：ここでは、紫の上をさす。

*袴着：ここでは、姫君が初めて袴を着ける儀式。

*前齋宮：亡き六条御息所の娘。光源氏は養女として引き取っている。この時、二十二歳。紫の上は二十三歳。

問一 傍線部1「つらきところ多く試みはてむも残りなき心地すべき」には、「宿かへて待つにも見えずなりぬればつらきところの多くもあるかな」という和歌がふまえられているが、この歌を参考にして解釈すると、この「心地」とはどのような「心地」と考えられるか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は、10。

- ① 光源氏からの転居の要請を断ってみても、大堰の地に長くは住んでいられないだろうという「心地」。
- ② 転居を続けるにつけても、これまで以上に悲しみを味わい尽くして絶望的になってしまおうという「心地」。
- ③ 自分と姫君についての結論を先延ばしにすることがむずかしく、決断までもう時間がないという「心地」。
- ④ 光源氏の心を試してみても、長い将来を期待することができず、人生の晩年が近づいてきたという「心地」。
- ⑤ 姫君を手元においた光源氏との駆け引きを続けるには、あとわずかの時間しか残されていないという「心地」。

問二 傍線部2「人の漏り聞かむこと」とあるが、その内容はどのようなことか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は、11。

- ① 明石の姫君の母親が、実は紫の上ではなく、明石の君であるということ。
- ② 光源氏が、むりやり明石の君と姫君を引き離すようなことをしたということ。
- ③ 紫の上は、実は姫君をかわいがる気持ちがなく、冷たくしているということ。
- ④ 光源氏が、姫君だけを大切にしている明石の君を軽々しく扱っているということ。
- ⑤ 光源氏と紫の上は、実は明石の君から強引に姫君を押しつけられたということ。

問三 傍線部3「ことわり」、7「めざまし」の意味として最適なものを、それぞれ次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。
「ことわり」 解答欄番号は、12。

- ① 判断
- ② 道理
- ③ 拒絶
- ④ 躊躇
- ⑤ 妥協

「めざまし」 解答欄番号は、13。

- ① すばらしい
- ② 驚異的だ
- ③ 満足だ
- ④ 情けない
- ⑤ 心外だ

問四 傍線部4「かかる人」と同じ人物を表わす語句を、この後の文中から抜き出せ(五字から八字)。解答用紙(その2)を使用。
問五 傍線部5「人」、6「数ならぬ人」は、それぞれ誰を指すか。次の①～⑤からそれぞれ正しいものを選び、記号をマークせよ。

「人」 解答欄番号は、14。

① 光源氏

② 紫の上

③ 明石の君

④ 明石の姫君

⑤ 世間の人

「数ならぬ人」 解答欄番号は、

15。

① 光源氏

② 紫の上

③ 明石の君

④ 明石の姫君

⑤ 世間の人

問六

□に入れるべき語として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は、

□16。

- ① おはし
- ② たまは
- ③ たまひ
- ④ たまふ
- ⑤ きこえ

問七 本文の内容として、正しくないものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は、□17。

- ① 光源氏は、前斎宮のことを引き合いに紫の上の世話好きな性格を伝え、明石の姫君を託してもけつして心配ではないと強調している。
- ② 光源氏が数多くの女性と付き合いながら、紫の上を重んじているのは、それだけ紫の上がすぐれているからだ、明石の君は思っている。
- ③ 光源氏は、明石の姫君の将来のため、できるだけ早く自分と紫の上のもとに姫君を引き取りたいと考え、明石の君を説得しようとしている。
- ④ 明石の君は、あくまで娘の将来を第一に考え、自分自身がどうなるかは宿世に任せるほかはないという、けなげな母親らしい決断を下している。
- ⑤ 明石の君が娘を光源氏に託す決断ができないのは、一つには、娘と離れた場合、光源氏の訪問が途絶えることを懸念しているからである。

三 次の記事を読んで、後の問に答えよ。

* アリストテレスの学問分類論は、人間と自然との関係についての産業革命以前、近代文明以前の発想をはつきりと浮彫にしている。程度の差こそあれ、自然との関係は人間にとつて運命的なものであり、それをどうしようとすることは主たる関心事ではなかった。主たる関心は宗教的な関心を含め、「より良く生きることにあり、人間自身のあり方が「学び」の主たる対象であった。その内容をめぐって激しい論争が行われたが、あくまでもその関心はこの大枠によつて制限されていた。

学問の目的が自然の³カンショウや「より良く生きる」ことにあるというそれまでの見解に対して、人間の福利や便益こそ、学問の目的であるという主張が十七世紀から台頭してくる。そもそも人間の福利や便益といったものは宗教的・倫理的発想からすれば価値の「低いもの」であり、極端に言えば、「どうでもよいもの」に属した。

人間の福利や便益と言へば、すぐに経済的なものが思い浮かぶが、経済的なものは古い学問観の下ではきわめて周辺の領域でしかなかった。経済(学)の語源を辿っていくと「家政」という言葉に辿り着くが、その中身は家の統治に関わるものであって、私的なものであるとともに、その内容は人間の統治(子供や奴隷、召使などの)をも含んでいた。狭い意味での経済活動は「家政」の一部分であり、それは家の再生産⁴のために不可欠なものと考えられていた。つまり「より良く生きる」ための手段として物質的・経済的活動が A 的に考えられていたのである。この A 的な活動に人生のエネルギーの多くを費やすことは

「より良く生きる」こととむしろ矛盾するもの、危険な誘惑に満ちたものと考えられ、アリストテレスはそれを市民にふさわしくない活動と説明している。こうした伝統と物欲を危険視するキリスト教の伝統とが相互に補強しあつたことは想像に難くない。

便宜重視の発想は、「より良く生きる」という価値観に代わつて「生きること」そのものが重視されるようになったこととなつていた。自らの生命を保持するために適当だと思つるように自分の能力を行使する自由を人間は生まれながらに持っているというのが、今や根本原理として現れたのである。「生きること」は「より良く生きる」ことの前提条件であるが、価値的には後者が優位するというのがそれまでの発想であつた。その結果、たとえば「より良く生きる」ためにはある種の信仰が必要であるという

ことになり、このある種の信仰を持たない人間の生命は容易に無視されることになった。福沢諭吉は、このことを「有徳の善人、必ずしも善を為さず」と述べ、「往時、西洋諸国にて、宗旨のために師を起し人を殺したるの例は、歴史を見て知るべし。その最も甚だしきものはペルセキウシヨ（Persecution）として、己が信ずる所の宗旨に異なる者を逐ひてこれを殺戮することなり」とずばりと指摘している。これと対置されるのが、「無徳の悪人、必ずしも悪を為さず」という主張であり、三百年の太平を拓いた徳川家康を例として挙げている。実際、**B** にとつて太平Ⅱ平和Ⅱ安全は必須の基礎条件であり、信仰の違いに対してお互いに寛容になることが必要であつた。政治思想史において安全や平和という価値が登場した背景には **B** が何よりも根本的な価値であるという価値観の変化があつた。

特徴的なのは、マキアヴェツリ（マキャベリ）に連なる一連の思想家たちが安全と平和という価値を重視し、あわせて経済活動に関心を向けていることである。安全や平和はそれが危機に瀕している限りにおいて切実な価値であるが、いったんそれが確保されれば「次に何をするか」が問題になる。人間は自己保存・維持のために自らの能力を自由に使う権利があるという場合、当然に出てくるのは生命の維持に必要な手段、生活手段の調達であり、それはソウバン⁵ 経済的な活動につながっていく。そして、「利益」という言葉が重要な意味を帯びてくる。

「生きること」を基本に大衆のエネルギーを平和的に解放するための手立てが「利益」であり、経済活動はその受け皿であつた。労働は人間にとつて避けるべきものから積極的に価値を生み出すものになり、自然はカンショウの対象から欲望の対象や積極的な利用の対象になり、人間によつて「使役」されるべきものとなつた。制作学は日常用品を作る活動から、あらゆる知恵を駆使して機械をはじめとして「人造の物」を新たに作る技術に変化していった。自然の規則の解明は自己目的ではなく、原因究明を経てその利用・活用と事実上結びつくことになった。それによる生産の飛躍的な増大と経済成長への展望が開けてくる。ある人は、これを「利益」と便益中心の「豊かな社会」と呼び、ある人は「欲望の体系」と呼んだ。マルクスが人間を「労働する動物」と規定したのは、このような社会の潮流に適うものであつた。

実践の世界は元々人間が変えていくことができる領域であり、自然との関係で「学ぶ」ことが蒙つたような断絶性はない。しか

し、自然と人間との関係が大きく変わり、それによって社会そのものが変わることは、実践の世界に大きな影響を与えることになった。人間に求められる徳目の中で生産活動⁶に関わる徳目が増えてくるのは避けられない。しかし最も重要なのは、「生きること」の台頭によって、「より良く生きる」ことに関心を向けてきた実践の世界が変わったことであつた。

それは何よりも人間が生命維持に最大の関心を向け、身分的な差別が急速に意味を失うことを意味した。言い換えれば、生命を中心にした「平等化」現象である。生命の維持はそれを可能にする手段、一定の富を必要とすることになり、政治的テーマとして貧困問題が浮上してきた。それまでの社会において貧困はさながら自然現象のようにみなされてきたとすれば、それが政治「問題」になり、解決すべき問題になったということである。社会が豊かになることによる貧困問題の解決に期待するのみならず、政治権力を使つて貧困という社会問題に取り組むことが徐々に常識化してくる。価値の源泉が労働であるという前提に立てば、それを公平に分配するのは当然ではないかという議論はやがて漠たる社会主義へとつながることになる。そこから、独裁権力による統制を含め、さまざまな社会主義の構想が登場したが、その背後に政治の変質があつた。⁸いわゆる自由主義体制においても政治が「利益政治」になつていくのは同じ趨勢⁷の産物であつた。

(佐々木毅『学ぶとはどういうことか』による)

(注)

* アリストテレスの学問分類論：それ以外としてはあり得ないものごとを扱う領域(理論学。代表的な対象は神と自然)と、それ以外の仕方でもあり得るものごとを扱う領域とに学問を大別した上で、後者をさらに人間が作り変えることができる実践学(代表的な対象は倫理や政治)と制作学(物を作る技術のほか思想的作品を生み出す活動)とに二分する。

問一 傍線部1「運命的なものであり、主たる関心事ではなかった」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は18。

- ① 自然は人間の利益を生み出す資源たり得ることを知らなかったから。
- ② 自然は人間に作物等の恩恵を与えてくれる大切な存在であったから。
- ③ 自然は人間が変えていくことができないものと考えられていたから。
- ④ 自然は人間が使役してはならない神聖なものと信じられていたから。
- ⑤ 自然は人間が出現するはるか以前から既に存在していたものだから。

問二 傍線部2「この大枠」とは何か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は19。

- ① 運命的なもの
- ② 宗教的な関心
- ③ 人間と自然との関係
- ④ 「より良く生きること」
- ⑤ アリストテレスの学問分類論

問三 傍線部3「カンショウ」を漢字に直すとき、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は20。

- ① 観照
- ② 観象
- ③ 観賞
- ④ 鑑賞
- ⑤ 管掌

問四 傍線部4「再生産」とは、ここではどのような意味で用いられているか。最適なものをおの①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は21。

- ① 可變的な拡大・縮小
- ② 飛躍的な発展・繁栄
- ③ 断続的な継承・相続
- ④ 段階的な自立・自営
- ⑤ 継続的な維持・運営

問五 空欄Aに入れるのに最適な語を次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は22。

- ① 恒常
- ② 従属
- ③ 相補
- ④ 中心
- ⑤ 必然

問六 空欄Bに入れるのに最適な語句を文中より十字以内で抜き出せ(句読点や記号の類も一字に数える)。解答用紙(その2)を使用。

問七 傍線部5「ソウバン」を漢字に直すとき、最適なものをおの①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は23。

- ① 相反
- ② 相伴
- ③ 早晚
- ④ 争番
- ⑤ 喪盤

問八 傍線部6「生産活動に関わる徳目」として最適なものをおの①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は24。

- ① 穏和
- ② 勤勉
- ③ 親切
- ④ 清廉
- ⑤ 勇敢

問九 傍線部7「さながら」の品詞は何か。次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は25。

- ① 名詞
- ② 副詞
- ③ 係助詞
- ④ 形容詞
- ⑤ 形容動詞

問十 傍線部「いわゆる自由主義体制においても同じ趨勢すうせいいの産物であつた」とあるが、その理由の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は26。

- ① 自由主義体制においても、貧困問題は早急に解決すべき最重要課題であつたから。
- ② 自由主義体制においても、貧困問題の解決には政治権力の強化が必要だつたから。
- ③ 自由主義体制においても、生命を中心とした「平等化」をめざす必要があつたから。
- ④ 自由主義体制においても、生命の維持にはそれを可能にする手段、一定の富が必要だつたから。
- ⑤ 自由主義体制においても、労働は価値の源泉であり、それを公平に分配するのは当然であつたから。

